

2ちゃんねる・「 T D R 最高の思い出（感動スレ）」に出典が求められるエピソードたち

[T D R 最高の思い出（感動スレ）](#) に書き込まれた、『最後のパレード』の元ネタだと"推定"される書き込みを列挙します。

中には同スレが原点ではなく、同スレに転載された話を、さらに盗用した
というようなケースが考えられます（2chが完全な元ネタではない可能性があります）。

一部比較のために『最後のパレード』から文章を引用しています。
どれだけ「似ている」か、ご自分の目でお確かめください。
（「天国のお子様ランチ」「しあわせな風景」「毎日、忘れないように」については[こちら](#)で。）

盗用されたレスがあまりに多いので、容量の関係から2ページに分割しています。

■ [2ちゃんねる・「 T D R 最高の思い出（感動スレ）」に出典が求められるエピソードたち](#)

- [p.14「天国のお子様ランチ」\(>>136-137\)](#)
- [p.25「しあわせな風景」\(>>308\)](#)
- [p.27「毎日、忘れないように」\(>>370\)](#) 及び本人の他レス ([>>375](#), [>>379](#))
- [p.30「ささやかな贈り物」\(>>211\)](#)
- [「他所からの転載」と元レスに記載されていた、同一投稿者からの3つのエピソード \(>>198-203\)](#)
 - [p.36「77歳の遠足」\(>>202-203\)](#)
 - [p.53「お手元に届けます」\(>>198-199\)](#)
 - [p.60「本当の勇者」\(>>200-201\)](#)
- [p.65「おばあちゃんと過ごした日」\(>>284\)](#)
- [p.70「8時間の再会」\(>>398, および投稿者の自己レス>>399\)](#)

後半の8エピソード（「一枚のシート」～「たくさんのありがとう」については [【こちら】](#)）

p.14「天国のお子様ランチ」(>>136-137)

136 : 名無しさん@ 1 2 0 分待ち : 02/06/25 03:31 ID:RBNJQkM2

>>13で紹介していた話の原文の手紙（といっても小雑誌
なんだけど）を発見した。前文あつぷするけど
「長文うざい、氏ね」って言わないでね。

137 : 名無しさん@ 1 2 0 分待ち : 02/06/25 03:32 ID:RBNJQkM2

秋もだいぶ深まってまいりました。ディズニーランドのスタッフの皆様、いつも
私たちにステキな夢をありがとうございます。

今月、数年ぶりに主人とディズニーランドに遊びに行かせていただきました。
実はこの日は、一年前に亡くなった私達の娘の誕生日、そして命日でした。身体
がとても弱かったために、生まれて間もなくこの世を去ってしまい、主人と二人、
ずいぶん長い間、深い哀しみにおりました。助けてあげられなかったこと、何
一つ我が子にしてあげられなかったこと、いまでも悔やんで仕方ありません。

生まれてきたら、このディズニーランドに連れてきてあげたいという私たちの
夢も果たすこともできず、主人と話し、この日、娘の供養のために来ることがで
きました。

事前にガイドブックを見て、かわいいお子様ランチがあることを知り、娘に食
べさせてあげたいと思い、ワールドバザールにあるイーストサイド・カフェに入り
ました。本当は8歳以下でないと注文することができないものでしたが、お店の方
に事情を話すと、快く注文を聞いてくださいました。そして隣の4人掛けのテー
ブルに子供用のイスまで用意してくださって、「3名様、こちらにどうぞ」と席を移
してくださいました。「本日はよくきてくださいました。ご家族で楽しんでいっ
てくださいね」と、まるで我が子がここに一緒にいるように私たちをもてなして
くださり、主人も私も感激で胸がいっぱいになり、涙があふれました。娘を亡くして
からはじめて、「親子3人である」ということを味わわせてくださって、本当に感
謝しております。娘が生きていてくれたらどんなに幸せだったろうという思いでい
っぱいです。

お店の方々にとっても親切にいただき、そしてかわいいお子様ランチも食べる
ことができ、娘もさぞ喜んでいただけたと思います。思いもよらぬ皆様の温かなおもて
なしのおかげで、とても良い思い出ができましたし、娘のためにも、とてもよい供
養ができたと思います。親子3人で楽しいひとときを過ごさせていただきまして、
本当にありがとうございました。あの時のお礼を言いたくて手紙を書かせていた
きました。

娘は天国へ行ってしまったけれど、私たちのかけがえのない宝です。これからも
愛し続け、一生ずっと一緒に生きて行こうと思います。また娘を連れて遊びに行か
せていただきます。ステキな夢を見れる日を楽しみにしています。

スタッフの皆様、日ごとに寒さが加わってまいりますので、お体を大切に、これ
からも私たちのために頑張ってください。では、さようなら。

比較検証は【[こちら](#)】

この話は当時オリエンタルランドの社内誌に（LINE）に掲載されたのだが後の調査で創作と判明している。

p.25 「しあわせな風景」 (>>308)

308 : 名無しさん@ 1 2 0 分待ち : 02/11/14 10:07 ID:XMnKQPDB
かなり昔ですがクイープハートのレストランで働いてました。
辞める日の最後、外に立つポジションをやらせてもらいましたが
それがちょうど花火の時間帯。
自分は花火が上がるほうを背に向けていないといけないので
私からみえるのは花火を見ているゲストの顔。
みんな花火を見ていて花火が打ち上げられるたびに表情が明るく見えるんです。
家族連れやカップル、大喜びしている友達同士のグループ・・・。
こんなに多くの人をいっぺんに喜ばせるなんて凄いい場所だと改めて
思いました。自分はこれでキャストを辞めてしまうけれど今までこんな
すごいパークの手助けができてこれよかったなあ・・・と涙ぐんでしまいました。

■ 比較検証は【[こちら](#)】

p.27 「毎日、忘れないように」 (>>370) 及び本人の他レス (>>375, >>379)

370 : 名無しさん@ 1 2 0 分待ち : 03/07/04 02:03 ID:o0b81aY5
ワタシもすごく感動した話があります！！ちょっと長いですが.....
数年前のクリスマスファンタジーの時の話です。
私はステージショーを見ようとお城の前の鑑賞エリアで座って待っていました。
その時私の隣にはカメラを抱えた70歳くらいの方が居ました。
『ディズニーランドはクリスマスが素敵だね』と私に話し掛けて来たその方。
『そうですね！！』私がそう答えるとその方は私にこんな話を聞かせて下さいました。
『私は前はそんなにディズニーランドに興味はなかったんです。
でもうちの奥さんが大好きでね...ショーの写真を撮るのがとても好きだったんだよ。
良く撮れたものを家に飾るんです。ある日奥さんにどうしてもと言われ2人でここに来たんです。
それから好きになってね...2人で年間パスポートを買ってね、
時には夕涼みだけ来たり御飯を食べに来たりしたんですよ。
でも奥さん...ガンで亡くなってしまっただけ...。今では一人です。
上手くはないんだけどこうして写真も撮ってね、良く撮れたものを仏前に飾ってあげてるんですよ』
.....その方は笑顔で話してたけど私は涙を堪えるのに必死でした。
素晴らしい夫婦愛の話と楽しそうにショーを見てたその方の笑顔は忘れられません。
奥さんが隣で笑っているように感じました。

■ 比較検証は【[こちら](#)】

同スレの本人によるレス

375 : 370 : 03/07/05 20:27 ID:3QNEmq41
>374
そうですね。その方はダンサーマニアでもキャラマニアでもなく
純粋にディズニーが好きと言う感じでした。
誰かと群れている訳でも無く、お一人でしたよ。

379 : 370 : 03/07/06 00:14 ID:/5H0E0ka
>376,378さん
同一人物ですかね??
でもそうですね、年輩の方でたしかメガネをかけてらっしゃいました。
私がお話したのはホント随分前なんですけど.....

2009/2/27に、2ch内「[TDR感動したことをかたれ2](#)」スレの>>655において
上記書き込みの本人と名乗る人物が、過去スレに投下したものと告白。
それと同時に、中村氏の手によって改悪されたことに対し、残念だと述べている。

655 : 名無しさん@ 1 2 0 分待ち : 2009/02/27(金) 18:02:10 ID:oQcFaLkQ
私もその本読んでびっくりしました！
「毎日忘れないように」というタイトルの話は私が過去スレに書いたものです...

よい話でしたので色々な方に読んでいただけたらと考えれば、使われるのは別に構わないのですが話が微妙に変えられていたのが残念です

まずおじいさんは奥様の事「奥さん」と呼ばれていて「あいつ」と言う呼ばれ方はしていないしチケットが勿体ないから仕方なく来ているという感じの書かれ方でしたが実際はご自分もパークを好きになったので奥様亡き後も年パスを買われて通われていると仰ってました。あと私が「御仏前にそなえてくださいね」と心の中で言ったと書かれています。実際はその方が苦手なカメラを撮り続ける理由が「奥さんの為に一番良く撮れたものを仏壇に飾る為」との事だったんです。

出来ればそのまま転載していただきたかったなと思いました

p.30 「ささやかな贈り物」 (>>211)

211 : 名無しさん@ 1 2 0 分待ち : 02/09/06 00:33 ID:xYRDeMdo

数年前のダンスフィーバー(inT L)のイベント時に来園したときの話です。

その日はとても空いていて、夜になりあらかじめアトラクションも乗ってしまったので

そろそろ帰ろうと思い、帰りがてらイベント特設ステージ前にあった特設ブースで飲み物を買った時のそのキャストの人との思い出

俺「出口ってどっちですか？」(当時はあまり来園したことが無かったもので園内での方向感覚が皆無でした)

キャスト「もうお帰りですか？」チラッと自分の時計を見る。

キャスト「お急ぎですか？」

俺「別にそういうわけじゃないけど・・・」(さっさと教えるよ!!)

キャスト「では、今日一日のことを思い出してこちらのステージの方を見てください。」

俺(なんだよいったい!うぜー!!)と思いつつ彼女とともにステージの方を見る。

俺がステージの方を見たその瞬間、大きな音とともにステージの上方に上がる大きな花火。

買った飲み物を受け取るのも忘れ、花火をぼーぜんと眺めてしまう俺と彼女。

二人ともその日花火があるなんてまったく知らなかったのです。

花火が終わりふと我に返って振り向くと、キャストが笑顔で

「思い出一つ増えましたか？」と。

その後、そのキャストは親切丁寧に出口を教えてください我々は帰路につきました。

今でも彼女と来園するとその時の話題が出て「あれは感動したよね」と盛り上がっております。

あの時のキャストよ素敵な演出をありがとう。

(参考:『最後のパレード』p.31より一部引用)

その日はすごく空いてました。

夜になって、アトラクションにもあらかじめ乗ったから、そろそろ帰ろうかと彼女と話していました。

ぶらぶら帰りながら飲もうと思って、特設ステージのわきにあるブースでジュースを買って、

そのキャストに声をかけたときのことです。

「出口ってどっちですか？」

当時、俺はあんまりディズニーに来たことがなかったから、いまいち方向感覚がつかめてなかったんです。

するとそのキャストは自分の時計を見ながら言いました。

「もう、お帰りですか？」「……………はあ」

「お急ぎでしょうか？」

「べつに、急ぎじゃないけど」(一部略)客が聞いているんだから、さっさと教えるよってイラつきました。

「では、今日一日のことを思い出してはいただけませんか？」

(以下略)

「他所からの転載」と元レスに記載されていた、同一投稿者からの3つのエピソード (>>198-203)

p.36 「77歳の遺足」 (>>202-203)

202 : 転載 : 02/08/31 02:19 ID:7H29/jBn

ゲストからの素敵なお手紙

前略、失礼いたします。

私は今年77歳、いわゆる喜寿を迎えた老人です。

…中略…

ピーターパン空の旅の長い行列に並び、1時間近くかかってやっと自分の番になりましたが、周囲を見回しても私たちのような年寄りには目につきません。自分が来てはいけない場違いの所に来てしまったような気持ちになりました。「動いている乗り物に降り降りするのだから、足元に気をつけて」と子供に注意され、なおさら、無理な所へ来てしまったと思いました。

ところが乗る時です、係りの女の方は、動いている1つの席を空のまま先送りし、次のボックスを停車状態にして私たち二人を乗せてくれ、「いってらっしゃい」と声を掛けてくれたのです。嬉しゅうございました。空中遊泳気分で一周し、いざ降りる時、また男の係りの方が手を添えてゆっくり降りしてくださり、「足元にお気を付けて...。ありがとうございました」と送り出してくださったのです。お礼は私どもから申し上げなければなりませんのに....。

(参考：『最後のパレード』p.37より一部引用)

私は今年で77歳、いわゆる喜寿を迎えた老人です。

(中略)

ピーターパン空の旅では長い行列に並びました。1時間近く待ってようやく自分の番がきましたが、どこを見回しても私たちのような年寄りには目につきません。「動いている機械に乗り降りするんだから、足下に気をつけてね」と我が子に注意されて、ますますこれは無理なところにきたと思いました。

ところが乗るとき、係の女性が動いている席をひとつ空のまま先送りし、次の席を停車状態にして乗せてくださったのです。これなら私にも安心して乗れる。とてもありがたかったです。そして空中遊泳気分で一周して降りるときも、別の係の人が手を添えてゆっくり降りしてくださいました。そして「足元にお気を付けて、ありがとうございました」と送り出してくださいました。お礼は私たちが申し上げなければなりませんのに、うれしゅうございました。

(以下略)

203 : 転載 (続き) : 02/08/31 02:24 ID:7H29/jBn

社の教育でしょうか、係りの方々が、高齢の私たちに温かく接して下さい、来て良かったと思う気分になってくれました。

3時のパレードの時、私たちはパレードの少し手前に席を取りました。ここでも高齢者は私たちぐらいでした。パレードが始まり、何番目の組だったか忘れましたが、立派な男性7~8人ぐらいのグループで、茶系統のすっきりしたスタイルで踊りながら進んでこられた方のうち、一人の方が私の前を通り過ぎたと思いましたが、引き返して来て両手で私の手を握り、「ようこそ、こんにちは」と、ニコニコしながらおっしゃったのです。私は「ありがとうございます」と申し上げましたが、残り少ない人生の良い思い出となり、胸に焼き付きました。

夜の光のパレード、夜空に輝く花火を終わりまで見物して帰りました。人と人との触れ合いの尊さ、ありがたさ、名も存じ上げない方々ですが、一度お礼を申し上げたく走り書きいたしました。これからも若い人はもちろん、長い人生をしめくくろうとする年輩者にも楽しい夢と喜びを分けて下さい。皆様方のご健勝と、益々のご活躍、さらには貴社のご繁栄をお祈り申し上げます。お礼に代えさせていただきます。 かしこ

これはある所で読ませて頂いた話です。このスレに合っていたので載せさせて頂きました。

タイトル「ゲストからの素敵な手紙」とあることから、[こちら](#)からの転載の模様

p.53「お手元に届けます」(>>198-199)

198 : 転載 : 02/08/31 01:54 ID:7H29/jBn

いまから、お話しする「ハングリーベア・レストランにて」は、マロウィさんが発行しているメールマガジン《ディズニーランドで遊びながら英語も勉強するんだい!!!》に掲載されていたお話です。

以下、メールマガジンに掲載されていた文を載せています。

通巻108号 1998/12/06号

ハングリーベア・レストランにて

読者の POOHさんからのメールです。

「あれは年前、わたしが高校2年生のときの 話です。

中略.....Hungry Bear Restaurant で食事をとっていたとき

私は はめていた指輪をもてあそんでいて 落としてしまいました。落とした場所が悪かったです。

そこは地面から少し高いところに板張りの床を作っている場所で、板と板の隙間に落ちてしまい、どうしても取れなくなってしまいました。わたしは必死になって取ろうとしましたが、どうしても取ることができずに途方に暮れていました。大人たちは「あきらめろ」と言いましたがわたしにとってはとても大切な指輪でした。初めて私がもらった指輪でしたから、・・・泣きそうになりながら仕方なくあきらめようとしてその場を立ち去ろうとしたとき一人の男性スタッフが泣きそうなたしに気が付いて声をかけてきました。「どうされましたか？」事情を説明すると、その方は「泣かないでください、今すぐ指輪をお取りすることはできません、必ずお手元にお届けします」と、言ってくださいました。「テラスの板張りの床はそのままお店の中に繋がっているから、板を途中で切ってしまうと その下に落ちた指輪は 取り出せません。それができるまで、待って下さい」。

(参考：『最後のパレード』p.56より一部引用)

なにげなく指輪を触っていたら、落としてしまいました。その落とした場所がよくなくて、これはさすがにダメだと思いました。そこは少し高床になっているテラスで、指輪は板と板のすきまに転がり落ちてしまったのです。がんばって手を突っ込んで取ろうとしましたが無理でした。かなり奥に入り込んでしまったようで、指先で触れることすらできません。両親から「もういいからあきらめろ」と叱られました。後ろ髪を引かれる思いでその場を立ち去ろうとすると、様子を気づいたひとりのキャストさんが「どうしました？」と声をかけてきました。(以下略)

199 : 転載 (続き) : 02/08/31 01:59 ID:7H29/jBn
まさかそこまでしてもらような指輪ではなかった ものですから、
「もう いいですから」とわたしは もうしたのです が、
そのスタッフの方は、こうおっしゃいました。
「ディズニーランドで泣いているお客様を 放っておくわけには 参りません。
ここはディズニーランドですから、お客様には 笑っていただきたいんです。
大切な指輪なんでしょう？」
すばらしいキャストですね。
わたしは いま、しばらく 泣いています。マロウイ注。
にっこり笑顔のおまけ付き。
わたしは『大切な指輪』だなんて 一言も言わなかったのに スタッフの方は
わたしの気持ちを 分かってくれていたんです。
その優しい心遣い、あたたかな言葉に、
わたしは 嬉しくてほんとうに泣いてしまいました。
「かならずお手元にお届けしますから あきらめたり泣いたりしないでくださいね。」
と、スタッフの方は、元気づけて下さいました。
その三週間後、ディズニーランドから電話がありました。
「指輪を見つけましたので お送りします。」と女性オペレーターの声。
翌日には 確かに わたしの指輪は 戻ってきました！！
しかも、きちんと洗ってくださったらしく 指輪は以前よりピカピカになって
わたしの指を飾ってくれました。」
ログイン名POOHさんは、最後、次のように書いてくれています。
「本当のディズニーランドの良さを知った 出来事でした。
本当に本当にディズニーランドは素晴らしいですね。
その精神を育てるウォルト・ディズニー の世界は かけがえのないものです。
Viva! Disney! E N D

p.60 「本当の勇者」 (>>200-201)

200 : 転載 : 02/08/31 02:09 ID:7H29/jBn
ミステリーツアー、キャストさんのお話
この話は、私が以前、シンデレラ城ミステリーツアーで勤務していたときの出来事です。
私がデビューして半年位したころに、ある養護学校の生徒さんが数名、私のツアーに入られました。私は「大丈夫かな？怖がって、出てしまいうんじゃないかな？」と少し不安になりながらツアーを始めました。
ツアーが進み、私が魔法の鏡とやりとりをしているのを聞いて、生徒さんの1人が私に「お姉ちゃん、あいつ悪いやつなの？」と尋ねてきました。私が「うん、あいつ悪いやつで、お姉ちゃんのこと、いじめるの！」と答えると、それまで怖がりながら私の後ろについてきてた生徒さんたちが私をとり囲んで、「僕たちがお姉ちゃんのこと守ってあげるよ」と言ってくれ

たんです。しかも、ツアー中、ずっと私の手を握っていてくれました。
そしていよいよ、最後の部屋で悪の大王と戦う勇者を1人選ぶときがきました。私が「どなたがいっしょにいませんか？私と一緒に悪の大王と戦って下さい！」とお願いすると、1人の男の子が小さく手を上げてくれました。
養護学校の生徒さんの1人でした。
そして私が、「大丈夫？本当にお姉ちゃんと戦ってくれるの？」と尋ねると「僕ね...本当はとっても恐いんだ。でも、お姉ちゃんのためにがんばるよ。」
そう言って、勇気を出して戦ってくれたんです。もちろん、彼は見事に勝利を納め、私は彼に勇者のメダルを首にかけてあげました。
彼のあのときの笑顔は忘れられません。
ツアーが終わり、私がお城の下でツアーの皆さんを見送っていると1人のおばあちゃんが、泣きながら私の所へ握手を求めてきました。
さっき、戦ってくれた男の子のおばあちゃんでした。

(参考：『最後のパレード』p.61より一部引用)

私がキャストとしてデビューして半年ほど、シンデレラ城ミステリーツアーで勤務していたときの事です。その日、養護学校の生徒さん5, 6名がツアーに参加していました。私はすこし不安を感じていました。「大丈夫かな.....、怖がって途中で出ていってしまうんじゃないかな」と心の中で思っていました。
(中略)
ツアーの途中、私が魔法の鏡にいる魔女とやり取りしているとき、生徒さんのひとりが私に話しかけてきました。
「ねえお姉ちゃん、あいつ悪いやつなの？」顔は真剣そのものです。
「うん、あいつは悪いやつで、お姉ちゃんのことをいじめるの！」
(以下略)

201 : 転載 (続き) : 02/08/31 02:12 ID:7H29/jBn

「本当にありがとう、私は今までにあの子のあんなにうれしそうで誇らしげな顔は見たことがない。今日は連れてきて、本当に良かった。」そう言ってくださいました。私はこのときに、うれしくて、本当にこの仕事をして良かったと心の底から思いました。そして同時に“ハピネス”というのは、私たちキャストがゲストに提供するだけでなく、こんなにモステキな“ハピネス”をゲストから受け取ることがあるんだ！ということを知りました。
私にとっては、何年たっても忘れることのできない、大切な思い出です。
そして、このときの気持ちを思い出して、1人でも多くのゲストに「今日は来て良かった」と思ってもらえるような、ゲストサービスをしていきたいと思えます。
このお話はあるところで読ませていただきました。
これを読んだ時、私は「この男の子こそ、ヒーローのメダルをもらう権利があるなあ」と思いました。
そして、こういうゲストとキャストのコミュニケーションっていいなと思いました。
今のパークでは良くないゲスト・キャストがいたりします。
パークはやっぱり(一人残らず)皆がハッピーになれる場所であって欲しいですね。

いつまでも、キャスト・ゲスト共に幸せな気持ちになれるパークでありますように...

「ミステリーツアー、キャストさんの話」というタイトルから、[こちら](#)からの転載の様様。

上記3エピソードは同一人物による転載。
この3つが(間にヨソからの引用が挟まれているとはいえ)『最後のパレード』内でも連続しているあたり、盗用編集のずさんさが見て取れる。

p.65「おばあちゃんと過ごした日」(>>284)

284 : 名無しさん@ 1 2 0 分待ち : 02/10/30 11:01 ID:0Bo7wEuf

うちのおばあちゃんは83才ですが、「ディズニーランドのオープンときは行ったけどまだディズニーシーには行ったこと無い、一回は行ってみたい」と言っていたので、1stアニバーサリーのときに私とおばあちゃんと2人で行ってきました。
おばあちゃんのペースに合わせて、尚且つおばあちゃんが楽しめるものを、と思いレールウェイを廻ったり、スチーマーに乗ったり、ミスティックやアソールやマーマイトを見たりアババに乗ったりマジックランプシアター見たり、ゆっくりシーを見て廻りました。
だけど、おばあちゃんのペースに合わせて行動したはずなのに、先にバテたのは私でした。
実はその時私は風邪の熱が引いたばかりで、前日までの4日間は寝たきりでした。
幸い体調は悪くないものの病みあがりの鈍った足で歩き回るのは辛くて、膝がギチギチでした。

カラメケツのアイスが売っているお店で一休みしていたとき、私は「恥ずかしいから嫌だ」と言ったんですがおばあちゃんは「いいから椅子に足を投げ出しなさい」と言わずと膝をさすってくれました。
「なんかせつかく連れてきたのに、私が先にバテて情けないなあ、ちくしょう」と思いつつ、悪いやら照れくさいやらで何も言えませんでした。
シーソーが始まるまで、ずっと海と夜景を見ながら2人で話をしていました。いつも彼氏のいる場所におばあちゃんがいるって不思議だなと思いつつ、わたしの小さい頃の話とかをしてました。
シーソーが始まってわたしは夢になってショーを見ていましたが、たいまつの子が出てきたとき、おばあちゃんに話しかけようとして横を見たらおばあちゃんが泣いていました。びっくりして「どーしたの!？」と聞いたら「今日は本当にありがとうね、あっちゃん(わたしのこと)と一緒に本当に楽しかったよ。こんなに素敵なものを見せてもらって本当に申し訳ない、おばあちゃんは幸せだよ」と言ってくれました。私は何か喋ったら絶対泣きそうだったので、「またこようよ」だけ言ってあとは唇をかみしめてショーを見ました。

帰りの新幹線の中でこの先も1年ごとにシーをお祝いしてこうねって約束しました。今度は家族みんなで行こうと思っています。

(参考:『最後のパレード』p.66より一部引用)

うちのおばあちゃんは83歳です。ディズニーランドはオープンときは行ったきり、ディズニーシーには行ったことがなく一度行ってみたいということで、1st.アニバーサリーのときにおばあちゃんと2人で行くことにしました。園内では少し気をつかいました。おばあちゃんのペースに合うように、なおかつおばあちゃんが楽しめるものと思い、レールウェイやスチーマーラインに乗って景色を楽しんだり、アンコールやマーメイド、ミスティック、マジックランプシアターといったショーを見たりして(以下略)

p.70「8時間の再会」(>>398、および投稿者の自己レス>>399)

398 : 名無しさん@ 1 2 0 分待ち : 03/08/02 01:53 ID:+Ez/t0ka
バツイチの俺、約束の時間ぎりぎりに舞浜駅のホームから階段を下りると、雑踏の中に元妻とミニリュックを背負った小3の息子が待っていた。

半年ほど見ない間に一回り大きくなっている息子をじっと見ていると、元妻が「じゃあ、お願いね」とパスポート(引換券)とメモ紙を渡してくれた。元妻に見送られ改札を出る俺と息子、メモには息子の好きなアトラクや好みの店、食べ物記してある。ランドまでの道のり、二人とも無言だった。いろいろと話したいこともあった、普通の父親が子にするように頭をなでたりも・・・でも、きっかけがつかめずにインパーク

いろんなアトラクを楽しむ内に少しずつ会話が増えてきたが、まだ、お互いに気を使っているような感じもあった。ミートでキャストから「おとうさん」と言われ、なんか不思議な気分。

長いようで短い、8時間ほどの親子ゲーム

夕闇せまる駅のホームで息子を元妻に引き渡した。彼女の希望で俺は一本あとの電車に乗るので、二人を見送ることになる。

電車のドアが開く寸前、息子が周囲も気にせず大声で叫んだ。「おとうさん、今度はシーだよ!絶対、一緒に行こうね!」その日聞いた、初めての「おとうさん」という言葉。

一人、電車の中で、スプラッシュで撮られた、同じように口を開けているバカヅラの二人の顔の写真を見ていると、なんだか泣けてきてしまった。

(参考:『最後のパレード』p.71より一部引用)

約束の時間ぎりぎり、舞浜駅のホームから階段を下りると、雑踏の中に元妻と小さいリュックを背負った小3の息子がいました。半年ほど見ないうちに、ひと回り大きくなった、息子をじっと見ていると、元妻は「じゃあお願いね」とチケットとメモを寄こしてきました。元妻に見送られながら、私と息子は改札を出ました。メモには息子の好きなアトラクションと店、食べ物が記されています。ディズニーランドに着くまでの道のりは、二人ともずっと無言でした。いろいろと話したいことがありました。普通の親子がするように息子の頭をなでたりもしたかった。でもきっかけがつかめない。そのまま入園しました。

（以下略）

399 : 名無しさん@ 1 2 0分待ち : 03/08/02 02:03 ID:+Ez/t0ka

わー、読み返して見ると自己中な文で、大変申し訳ない

後半の8エピソード（「一枚のシート」～「たくさんのありがとう」については [こちら](#)）
